

学術会議への人事介入問題 自由な研究妨げる

群馬 科学者会議支部・弁護士会が会見



日本科学者会議群馬支部と群馬弁護士会は22日、群馬県庁記者クラブで、日本学術会議への人事介入問題について共同記者会見を行いました。広く県民・国民に問題の重要性を知ってもらい世論を喚起したいと、群馬支部から弁護士会に声をかけて実現しました。

群馬支部から、代表幹事の山田博文群馬大学名誉教授、黒須俊夫群馬大学名誉教授、青木武生県立県民健康大学教授が出席。弁護士会から、久保田寿栄会長、古平弘樹副会長、熊川俊充憲法問題特別委員会委員長、東條宏、赤石あゆ子両副委員長が出席しました。

山田氏は、学問の自由は、社会の歴史や現状をさまざまな角度から検討して、将来の選択肢を国民に広く提示するために不可欠だと指摘。任命拒否は時の政権から独立した自由な研究活動を妨げるとして、拒否の理由を説明すること、速やかに6人を任命することを菅義偉首相に求めました。

熊川氏は、学者が組織の中で互いに議論し、切磋琢磨（せつさたくま）して、権力が間違った方針を選択したら指摘し見直しを求めることも学問だと述べ、学者集団の自立性・独立性を守らねば学問の自由は守れないと指摘。任命拒否により会議に欠員を生じさせていることは違法だと断じました。